

1 議 事 日 程

〔平成27年太宰府市議会 決算特別委員会〕

平成27年9月2日

午前 11 時 10 分

於 全員協議会室

- 日程第1 認定第1号 平成26年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程第2 認定第2号 平成26年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第3 認定第3号 平成26年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第4 認定第4号 平成26年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第5 認定第5号 平成26年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第6 認定第6号 平成26年度筑紫地区障害支援区分等審査会事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第7 認定第7号 平成26年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について
- 日程第8 認定第8号 平成26年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

2 出席委員は次のとおりである（18名）

委員長	門 田 直 樹 議員	副委員長	藤 井 雅 之 議員
委員	堺 剛 議員	委員	舩 越 隆 之 議員
〃	木 村 彰 人 議員	〃	森 田 正 嗣 議員
〃	有 吉 重 幸 議員	〃	入 江 寿 議員
〃	笠 利 毅 議員	〃	徳 永 洋 介 議員
〃	宮 原 伸 一 議員	〃	上 疆 議員
〃	神 武 綾 議員	〃	小 畠 真由美 議員
〃	陶 山 良 尚 議員	〃	長谷川 公 成 議員
〃	村 山 弘 行 議員	〃	橋 本 健 議員

3 欠席委員は次のとおりである

な し

4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市 長	芦 刈 茂	副 市 長	富 田 謙
教 育 長	木 村 甚 治	総 務 部 長	濱 本 泰 裕
地域健康部長	友 田 浩	総 務 部 理 事 兼 公 共 施 設 整 備 課 長	原 口 信 行
建設経済部長	今 村 巧 児	市民福祉部長	中 島 俊 二
教 育 部 長	堀 田 徹	上下水道部長	松 本 芳 生
総 務 課 長	石 田 宏 二	経営企画課長	山 浦 剛 志

地域づくり課長	藤田 彰	市民課長	行武 佐江
福祉課長	阿部 宏亮	国保年金課長	高原 清
都市計画課長	木村 昌春	社会教育課長	中山 和彦
上下水道課長	古賀 良平	監査委員事務局長	渡辺 美知子

5 職務のため委員会に出席した事務局職員の職氏名（3名）

議会事務局長	今泉 憲治	議事課長	花田 善祐
書記	山浦 百合子		

開会 午前11時10分

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（門田直樹委員） ただいまから決算特別委員会を開会いたします。

本日の決算特別委員会は、認定第1号から認定第8号までについて、各所管部長からの説明にとどめたいと思います。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 認定第1号 平成26年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） それでは、日程第1、認定第1号「平成26年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（濱本泰裕） 認定第1号「平成26年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定」につきまして、その概要をご説明申し上げます。

資料といたしましては、事務報告書の決算の概要に沿って説明をさせていただきます。

なお、説明の都合上、決算額は千円単位とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、1ページの会計別決算状況をごらんください。

平成26年度の一般会計の決算額は、歳入総額258億8,713万5,000円、歳出総額251億6,241万2,000円となっております。

参考に、これを前年度と比較いたしますと、歳入では24億7,349万9,000円、10.6%の増、歳出では28億4,771万1,000円、12.8%の増となりました。

これによりまして、歳入歳出差し引き額は7億2,472万3,000円の黒字となり、ここから繰越明許費及び事故繰越による翌年度に繰り越すべき財源1億6,941万円を差し引きますと、実質収支額として5億5,531万3,000円の黒字決算となっております。

次に、2ページをごらんください。

こちらに普通会計決算の概略を載せておりますが、これからの説明につきましては、一般会計に住宅新築資金等貸付事業特別会計及び筑紫地区障害支援区分等審査会事業特別会計を含めた普通会計の数値になりますので、あらかじめご了承ください。

平成26年度の予算執行に当たりましては、あらゆる補助メニューを積極的に活用しつつ、限られた財源の重点配分と各種施策、事業の効果的、効率的な推進に努めたところでございます。その結果、2ページに掲げます決算の内訳となっております。

それでは、まず歳入からご説明申し上げます。

3ページをごらんください。

歳入全体の決算額は259億371万5,000円で、前年度より24億8,798万4,000円、10.6%の増となっております。主な要因は、市税や消費税率の引き上げに伴う地方消費税交付金の増、臨時

福祉給付金や子育て世帯臨時特例給付金などによる国庫支出金の増、また体育複合施設や総合子育て支援施設の整備に伴います市債が大きく増加したことなどによるものです。

次に、市税の内訳をご説明いたします。

4ページをごらんください。

市税の決算額は79億5,892万1,000円で、前年度と比較いたしますと7,566万3,000円、1.0%の増収となっております。主な要因といたしましては、個人市民税が防災・減災関連事業の財源といたしまして均等割額が引き上げられたことに伴う増収、また固定資産税及び都市計画税についても、新たに課税対象となった新築家屋などの影響により増収になったこと、さらに歴史と文化の環境税が観光客の増に伴い増収となったことなどが上げられます。

また、5ページには一般財源の状況を載せております。

一般財源全体としては151億1,341万円で、前年度から7,404万4,000円、0.5%の減となっております。内訳といたしましては、先ほど申し上げました市税や地方消費税交付金は増額となっておりますけれども、国の緊急経済対策に伴う交付金など一般財源扱いの国庫支出金や平成25年度からの繰越金の減などによりまして、一般財源全体として減額となっております。

なお、6ページには歳入を自主財源と依存財源に分けて掲載をしております。

平成26年度は、体育複合施設や総合子育て支援施設の整備事業などに伴いまして、市債発行額が大きく増加したことなどにより、歳入合計占める自主財源の割合が46.7%から41.5%に減少する結果となっております。

以上で歳入の状況の説明を終わらせていただきます。

次に、7ページをごらんください。歳出の状況をご説明いたします。

歳出全体の決算額は251億7,598万3,000円で、前年度より28億5,990万7,000円、12.8%の増となっております。内訳を目的別に見ますと、総務費が財政調整資金、減債基金への積み立てなどによりまして9,088万3,000円、2.7%の増、民生費が総合子育て支援施設整備事業、生活保護費、臨時福祉給付金などにより12億6,107万1,000円、15.8%の増となっております。また、土木費は歴史まちづくり関連事業、梅林アスレチックスポーツ公園多目的広場の人工芝化事業などにより3億4,418万8,000円、22.2%の増、教育費は体育複合施設整備事業、史跡地公有化事業などによりまして11億9,779万9,000円、33.8%の増額となっております。

次に、8ページで歳出を性質別に分けて分析をしております。

義務的経費のうち、人件費は再任用職員の増などによりまして4,263万5,000円、1.5%の増、扶助費が生活保護費、臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金などによりまして5億1,558万7,000円、10.4%の増となりましたけれども、公債費は太宰府館建設に伴う市債償還の減などによりまして1億1,637万9,000円、4.5%の減額となりました。

また、投資的経費につきましては、体育複合施設整備事業、総合子育て支援施設整備事業、史跡地公有化事業などのほか、豪雨災害の復旧事業を実施したことによりまして、21億3,807万9,000円、67.2%の大幅増となっております。

その他の経費では、繰出金が国民健康保険事業特別会計への繰出金の増などによりまして1億5,216万5,000円、8.4%の増額となっております。

以上で歳出の説明を終わらせていただきます。

次に、本市の財政状況についてご説明をいたします。

10ページに経常収支比率の推移を載せております。

この経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標の一つですが、平成26年度は89.9%で、前年度から0.1ポイント悪化しております。要因といたしましては、経常収支比率の算定の分母となる市税など経常一般財源等収入は増加をしておりますけれども、分子となります経常経費充当財源一般財源のうち、公債費は減となっておりますけれども、扶助費や物件費が大きく増加したことによるものでございます。

また、11ページに健全化判断比率を載せております。

健全化判断比率は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標から成ります。

本市の平成26年度健全化判断比率は、一般会計等の実質収支が黒字であるため、実質赤字比率の表示はなく、公営事業会計も含めました実質収支の合計でも黒字であるため、連結実質赤字比率の表示もありません。また、一部事務組合まで含めた実質公債費比率は1.7%となり、昨年より2.0ポイント改善されております。さらに、地方公社や第三セクターなどまでを含めました将来負担比率は、市債残高などの将来負担額から充当可能財源を引きますとマイナスになりますので、負担比率の表示はありません。したがって、11ページの表からもおわかりのとおり、太宰府市の財政状況は全て早期健全化基準及び財政再生基準以下であるため、健全化法に基づく財政健全化計画及び財政再生計画の策定は不要であります。

12ページ及び13ページには、市債残高と基金残高の推移をグラフで載せております。

平成26年度末の市債残高は、体育複合施設整備事業や総合子育て支援施設整備事業などに伴いまして、前年度より24億1,737万1,000円増加し、227億5,475万6,000円となっております。

市債残高の約227億円を参考までに分析いたしますと、このうちの60%、約136億円は後年度に普通交付税として交付される額であり、また22%、約50億円が史跡地公有化の償還補給金などとして補助金で賄われます。よって、起債残高のうち実質負担額、いわゆる真水部分と言われる部分につきましては18%、約41億円ということになります。

一方、平成26年度末の基金残高につきましては、前年度より5億8,035万3,000円の増で、合計が52億3,966万9,000円となりまして、7年連続で基金残高は増加をしております。

以上、簡単ではございますけれども、一般会計及び普通会計の歳入歳出決算についての概要を説明いたしました。

詳細につきましては、配付させていただいております決算書並びに事務報告書、監査意見書等を参照していただければと考えております。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第2 認定第2号 平成26年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第2、認定第2号「平成26年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中島俊二） 認定第2号「平成26年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」ご説明申し上げます。

初めに、本市国民健康保険の加入状況につきましては、平成26年度平均数値でございますけれども、加入世帯数は1万309世帯、加入率は33.8%、被保険者数は1万7,514人、加入率は24.5%となっております。なお、平成25年度と比較しますと、加入世帯数及び加入者数とも約1%程度減少をしております。

次に、決算の状況につきましてご説明を申し上げます。

決算書でご説明をしたいと思っております。決算書は277ページからとなっております。

まず、278ページ、279ページをお願いいたします。

歳入の決算額につきましては、歳入合計73億2,467万95円となっております、前年度に比べ1億432万9,366円、1.4%の増となっております。

次に、282ページ、283ページをお願いいたします。

歳出の決算額につきましては、歳出合計83億8,105万2,571円で、前年度と比べ2億7,773万2,500円、3.4%の増となっております。

歳入歳出差し引き残額は10億5,638万2,476円の赤字決算となっておりますけれども、この歳入不足につきましては、翌年度繰上充用金で補填するため、平成27年度補正予算をお願いしているところでございます。

次に、歳入の主なものにつきましてご説明をいたします。

284ページ、285ページをお願いいたします。

1款の国民健康保険税は15億3,795万948円で、前年度に比べ2,289万3,131円、1.5%の減となっております。

286ページ、287ページをお願いいたします。

2款の国庫支出金でございますけれども、16億1,505万7,599円で、前年度に比べ6,760万1,920円、4.4%の増となっております。

3款療養給付費交付金は3億8,601万1,038円で、前年度に比べまして6,933万2,373円、15.2%の減となっております。

288ページ、289ページをお願いいたします。

4 款の前期高齢者交付金につきましては、概算で交付を受けまして 2 年後に精算を行う仕組みとなっております。平成26年度は平成24年度分の精算に伴う追加交付分7,361万9,851円を含みます21億267万8,025円となっております。前年度に比べまして3,730万3,545円、1.8%の増となっております。

6 款共同事業交付金は7億8,370万1,255円で、前年度に比べまして611万5,188円、0.8%の減となっております。この共同事業交付金は、保険者が負担する医療費に対する再保険制度でございまして、歳出の項目にあります各保険者からの拠出金を財源としまして、レセプト1件当たりの給付総額が30万円を超えるものに対しまして、国保連合会から各保険者に交付金として交付されるものでございます。

次に、歳出の主なものにつきましてご説明をいたします。

298ページ、299ページをお願いいたします。

2 款の保険給付費は50億4,696万598円、前年度に比べまして5,593万301円、1.1%の増、歳出総額に占めます割合は60.2%となっております。

302ページ、303ページをお願いいたします。

3 款後期高齢者支援金等につきましては、後期高齢者の医療給付費の現役世代の負担としまして拠出するものでございますけれども、9億5,055万2,867円となっております。前年度に比べ627万9,923円、0.7%の増、歳出総額に占める割合は11.3%となっております。

304ページ、305ページをお願いいたします。

一番下の6 款介護納付金でございますけれども、3億7,631万2,586円で、前年度に比べ384万5,930円、1.0%の増となっております。

306ページ、307ページをお願いいたします。

7 款の共同事業拠出金は8億9,198万314円で、前年度に比べまして1,629万1,036円、1.9%の増となっております。

312ページ、313ページをお願いいたします。

13 款の前年度繰上充用金は、これは平成25年度までの累積赤字額でございますけれども、8億8,297万9,342円、前年度に比べまして2億1,885万6,715円の増となっております。

以上が決算の概要でございますけれども、全国的に市町村の国民健康保険運営は非常に厳しい財政状況が続いております。「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」によりまして、国の財政支援の拡充及び平成30年度から都道府県が国民健康保険事業の財政運営の責任主体となりまして、市町村と共同して国民健康保険事業を運営することが決定されております。平成30年度の制度改革に向けまして準備を図りますとともに、医療費の適正化事業や市民の皆様の健康づくりに資する取り組みなどを行いまして、国保運営に努めてまいります。

よろしくご審議をいただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第3 認定第3号 平成26年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第3、認定第3号「平成26年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中島俊二） 認定第3号の「平成26年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定」につきましてご説明を申し上げます。

決算書は315ページからとなっております。

まず、316ページ、317ページの歳入歳出決算書をお願いいたします。

歳入合計は11億257万2,227円、歳出合計は10億3,366万7,680円となっております、歳入歳出差し引き残額は6,890万4,547円の黒字決算となっております。

前年度と比較しますと、歳入では7,089万5,404円、6.9%の増、歳出では5,222万7,824円、5.3%の増となっております。

318ページ、319ページの歳入歳出決算事項別明細書をお願いいたします。

歳入の主なものとしましては、1款保険料8億7,706万2,632円で、前年度より5,456万6,649円、6.6%の増、3款繰入金は1億7,489万6,218円で、前年度より1,654万7,262円、10.4%の増となっております。

322ページ、323ページをお願いいたします。

歳入のほとんどを占めます1款総務費は10億3,336万8,070円で、前年度より5,241万7,634円、5.3%の増となっております。

そのうち1項2目広域連合負担金が10億1,331万3,000円となっております、総務費の約98%を占めております。この連合会負担金につきましては、事務費負担金、保険料負担金及び保険基盤安定制度負担金が含まれておりまして、内訳につきましては事務報告書に掲載しております。

以上が決算の概要でございますけれども、後期高齢者医療制度につきましては、高齢化に伴う被保険者の増加及び医療費の増加等、後期高齢者医療保険を取り巻く状況は今後厳しくなる見込みでございます。本市としましても、保険者である福岡県後期高齢者医療広域連合と今後とも連携をしまして、適正な運営に努めてまいり所存でございます。

よろしくご審議をいただき、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第4 認定第4号 平成26年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第4、認定第4号「平成26年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中島俊二） 認定第4号の「平成26年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」ご説明を申し上げます。

決算書は327ページからとなっております。

まず、保険事業勘定からご説明を申し上げます。

330ページ、331ページをお願いいたします。

歳入合計は44億317万1,358円となっております、前年度と比べ1億3,622万2,777円、3.2%の増となっております。

332ページ、333ページをお願いいたします。

歳出合計は43億7,300万8,808円で、前年度に比べまして1億4,292万7,671円、3.4%の増となっております、歳入歳出差し引き残額は3,016万2,550円の黒字決算となっております。

次に、歳入の主なものにつきましてご説明を申し上げます。

334ページ、335ページをお願いいたします。

1款保険料につきましては、65歳以上の第1号被保険者保険料でございまして、9億9,461万3,962円、前年度と比べまして5,128万292円、5.4%の増となっております。

3款国庫支出金は8億9,100万7,391円で、前年度と比べ2,411万9,443円、2.8%の増となっております。

336ページ、337ページをお願いいたします。

4款の支払基金交付金は、40歳から64歳までの第2号被保険者保険料でございまして、各医療保険者が健康保険料と一緒に徴収をされます介護保険料を交付金としまして12億105万5,000円を受け入れてございまして、前年度に比べ1,590万6,216円、1.3%の増となっております。

5款県支出金は6億2,058万2,905円、前年度に比べ126万4,111円、0.2%の増となっております。

338ページ、339ページをお願いいたします。

7款繰入金につきましては、全て1項の一般会計繰入金となっております、6億5,604万2,376円、前年度に比べ683万7,976円、1.1%の増となっております。

次に、歳出の主なものにつきましてご説明申し上げます。

342ページ、343ページをお願いいたします。

1款の総務費は1億7,486万2,992円となっております、介護保険制度改正に伴いますシステム改修及び前年度介護給付費負担金及び交付金等の精算返還金等の増によりまして2,599万4,427円、17.5%の増となっております。

346ページ、347ページをお願いいたします。

一番下の保険給付費でございますけれども、41億3,787万8,264円で、歳出総額の約95%を占めておりまして、前年度に比べ1億1,397万9,799円、2.8%の増となっております。

1項介護サービス等諸費は、要介護と認定されました被保険者の方のサービス費用の9割相当分でございます。36億3,926万7,980円、前年度に比べ8,719万8,835円、2.5%の増となっております。

350ページ、351ページをお願いいたします。

2項の介護予防サービス等諸費は、要支援と認定されました被保険者の方のサービス費用の9割相当分でございます。2億6,456万713円、前年度に比べまして937万5,758円、3.7%の増となっております。

354ページ、355ページをお願いいたします。

一番下の3款地域支援事業費につきましては、地域で自立した生活ができますよう支援する事業費でございます。5,400万2,935円となっております。

続きまして、介護サービス事業勘定につきましてご説明を申し上げます。

366ページ、367ページをお願いいたします。

歳入合計は3,868万2,079円、歳出合計は2,480万4,445円で、歳入歳出差し引き残額は1,387万7,634円の黒字決算となっております。

368ページ、369ページをお願いいたします。

歳入の主なものとしましては、1款サービス収入は、ケアプラン作成手数料の2,654万486円となっております。

370ページ、371ページをお願いいたします。

歳出につきましては、全額1款総務費の2,480万4,445円となっております。

以上が決算の概要でございます。

よろしくご審議をいただき、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第5 認定第5号 平成26年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第5、認定第5号「平成26年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

地域健康部長。

○地域健康部長（友田 浩） それでは続きまして、認定第5号「平成26年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について」ご説明を申し上げます。

資料といたしましては、決算書373ページから382ページ、事務報告書は71ページ、決算審査

及び基金運用状況審査意見書は36ページから37ページとなっております。

説明につきましては、決算書の374ページ、375ページでさせていただきたいと思います。そちらをごらんさせていただきたいと思います。

平成26年度の歳入歳出決算につきましては、歳入が460万3,360円、歳出が159万4,437円となっております。歳入差し引き残額300万8,923円の黒字決算となっております。対前年比で見ますと、歳入で229万7,475円の増、99.6%の増額でございます。歳出では7,708円の増、0.5%の増額となっております。

歳入が増額になりましたのは、償還計画相談会を開きまして、償還者からの一括返済があったことによるものでございます。

また、歳出が増額になりました主な理由は、基金積立金の増によるものでございます。

今後の滞納解消に向けました取り組みといたしましては、まだまだ経済状況が厳しい状況の中ではございますが、昨年度に引き続きまして滞納者への家庭訪問や督促状の送付、償還困難者に対しまして償還計画相談会を開催するなど、滞納解消に努めてまいり所存でございます。

以上、簡単でございますが説明を終わります。

ご審議いただき、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

#### 日程第6 認定第6号 平成26年度筑紫地区障害支援区分等審査会事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第6、認定第6号「平成26年度筑紫地区障害支援区分等審査会事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中島俊二） 認定第6号「平成26年度筑紫地区障害支援区分等審査会事業特別会計歳入歳出決算認定について」ご説明申し上げます。

決算書は383ページからとなっております。

この特別会計は、筑紫地区4市1町で共同設置しております筑紫地区障害支援区分等審査会を運営するための特別会計でございます。平成26年度から2年間、本市が庶務担当市となっておりますことから、当特別会計決算につきまして上程をさせていただいております。

上程するに当たりましては、この審査会の設置に関する基本協定書に基づきまして、運営に当たる幹事会におきまして承認をいただいておりますことをご報告いたします。

それでは、決算の概要につきましてご説明申し上げます。

384ページ、385ページをお願いいたします。

本特別会計の歳入歳出合計は、ともに1,391万4,736円となっております。

386ページ、387ページをお願いいたします。

歳入の主なものにつきましてご説明いたします。

1 款分担金及び負担金の1,091万7,452円につきましては、4市1町からの負担金収入でございます。各市町の審査件数をもとにした件数割と、一律に負担する均等割で決定をしております。平成26年度の審査件数は、本市分が70件、筑紫野市142件、春日市132件、大野城市107件、那珂川町62件の総審査数513件となっております。

次に、2 款国庫支出金199万563円と7 款県支出金99万5,281円につきましては、障害支援区分認定等事業費補助金となっております。

388ページ、389ページをお願いいたします。

歳出の主なものにつきましてご説明いたします。

1 款1 項総務管理費につきましては、備考の欄にございますけれども、庶務関係費242万6,304円は、事務局の業務を行います嘱託職員の賃金等と、審査会開催案内等の郵送料となっております。また、審査会支援システム関係費756万432円につきましては、審査会システムの委託料と、各市町をつなぎます専用回線使用料となっております。

1 款2 項審査会関係費につきましては、認定審査会委員の報酬337万7,600円及び費用弁償55万400円となっております。

以上が決算の概要でございます。

よろしくご審議をいただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第7 認定第7号 平成26年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第7、認定第7号「平成26年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（松本芳生） それでは、水道事業の決算概要についてご説明申し上げます。

水道事業の決算書は水色になります。

平成26年度におきましては、全体として順調に運営することができましたので、前年度に引き続き、水道をご利用の皆様に対し安定して水の供給が行われたところでございます。

さて、今年度は地方公営企業法の実に50年ぶりとなる大改正の当たり年となっております。今回の改正で、資本金として経理していた企業債が負債に変わり、減価償却費の計算も、今までの国庫補助金等の建設財源を控除して行っておりましたみなし償却が統一的に廃止されております。このみなし償却が廃止されたことで、減価償却費の額は増加し、新たに長期前受け金という収入が発生しておりますし、そのほかにも貸倒引当金や賞与引当金などの処理方法も変わるなど、前年度とは比較しづらい部分がかかり生じてきておりますので、この点はあらかじめ

めご了承を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、まず4ページをお願いいたします。

平成26年度は、消費税が5%から8%に改定されております。内容は掲載のとおりでございますけれども、加入負担金につきましては、特例措置の適用後の金額となっております。

次に、工事でございますけれども、6ページをお願いします。

建設工事の概況は掲載のとおりでございます。

7ページに参考として記載しておりますように、本年度は新設工事が9件、布設がえ工事が10件、その他送水ポンプ等の取りかえ、水位計の設置で3件が完了いたしております。

次に、業務でございますけれども、8ページをお願いします。

(1)業務量の表の2段目でございます。年度末給水人口は5万9,139人で、前年度に比べて1,027人増加し、伸び率は1.8%となっております。

普及率につきましては、前年度から0.9ポイント上昇し、82.6%となっております。今後もしばらく普及対策は重要であると考えているところでございます。

また、給水量の年間としましては1.1%の増、その下の有収水量の年間は0.4%の増となっております。

一番下の欄の有収率でございますけれども、0.6ポイント減少しております。これは配水管等の工事延長が前年度よりも増加をしております。料金の対象とならない管の洗管水量が多く必要となりましたことが主な要因となっております。

次に、供給単価は212.90円、給水原価は227.60円となっております。これは水道料金よりも経費が少し多くかかっていることを示しているわけでございますけれども、水道料金以外の収入も大きな比率を占めておりますので、後ほど損益計算のところでも触れますけれども、水道事業の黒字経営は維持されているというところでございます。

次に、10ページの企業債でございます。

平成26年度末現在で14億255万円余りとなっております。今後借入れを行う予定は今のところありませんので、14年後の平成40年度には完済となる見込みでございます。

続きまして、16ページをお願いいたします。

平成26年度の損益計算書でございますけれども、下から4行目に記載のとおり、2億円を超える当年度純利益が生じております。この金額には新会計制度に移行したことが大きく影響をしております。記載にはございませんけれども、これを旧会計制度に置きかえてみますと、利益額は前年度プラス2,000万円ほどとなっております。経営状態としてはまずまずではないかと見ております。

続きまして、18ページをお願いいたします。

平成26年度の剰余金処分計算書(案)でございますけれども、当年度末残高は一番右上の欄で、約48億7,600万円となっております。このうち現金を伴わない39億550万円余りを資本金に組み入れ、現金化する3,570万円余りを建設改良積立金に積み立て、前年度と同額の9億

3,470万円余りを次年度に繰り越ししております。

なお、19ページ以降に関係諸表を添付しておりますので、これは後ほどご参照のほどよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第8 認定第8号 平成26年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第8、認定第8号「平成26年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（松本芳生） それでは、下水道事業の決算概要をご説明申し上げます。

下水道事業の決算書は黄色になります。

4ページをお願いいたします。

平成26年度は、下水道使用料を平均で7%引き下げております。水道事業と同様に消費税法の改正もありましたので、内容はごらんとおりとなっております。

次に、5ページの建設工事の概況でございますけれども、これも内容は記載のとおりでございます。平成23年度から取り組んできました奥園地区の雨水対策工事が、これで全て完了となっております。そのほか、陣ノ尾雨水工事、北谷、内山、松川、五条及び向佐野地区の污水整備を行っております。

次に、6ページをお願いします。

口の業務概況でございますけれども、普及率は99.2%、水洗化率は97.4%、そして水洗化人口普及率は96.6%となっております。

上から3段目の水洗化人口につきましては、前年度から521人が増加して6万9,095人となり、伸び率は0.8%となっております。

整備率は84.8%でございます。今後とも計画的な整備に努めていきたいと考えております。

有収水量につきましては、全体として0.3%の微増となっております。温泉污水は3.9%の伸びとなっております。

その下の使用料単価は174.39円、処理原価は166.53円となっております。

次に、10ページをお願いいたします。

イの企業債につきましては、前年度から約6億3,800万円減少し、年度末現在高は94億4,000万円余りとなっております。やっとの思いで100億円の大台を割り込んできましたけれども、現

在の計画では今後も軒並み減少していく見通しであり、その点明るい材料が下水道事業にはあると受けとめているところがございます。

それでは、次に16ページをお願いいたします。

平成26年度の損益計算では、これも下から4行目をごらんください。当年度の純利益の額は約2億9,000万円となっております。

下から2行目のその他未処分利益剰余金変動額でございますけれども、これは新会計制度で新たに追加された科目でございますけれども、非常に大きな金額でございますけれども、経理上現金を伴いませんので、これを何かの財源に充てられるといった性格のものではありません。最終的に、一番下の段になりますけれども、当年度未処分利益剰余金は19億3,600万円余りとなっております。

次に、18ページをお願いします。

平成26年度の剰余金処分計算書(案)でございます。先ほどの当年度未処分利益剰余金が一番右上の欄に表示されております。このうち18億2,400万円余りを資本金に組み入れ、3,000万円余りを減債積立金に積み立て、その残りを次年度に繰り越しとしております。

なお、19ページ以降に関係諸表を添付しておりますので、後ほどご参照いただきますようよろしくをお願いいたします。

説明は以上でございます。

よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。

○委員長(門田直樹委員) 以上で説明は終わりました。

質疑については、9月18日及び9月24日の決算特別委員会で行います。

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長(門田直樹委員) 本日はこれもちまして散会します。

散会 午前11時59分

~~~~~ ○ ~~~~~